

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		個別療育支援フォーマルハウト		公表日		2025年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		R6.6月に事業所を移転し、広々とした空間で過ごすことができる。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		有資格者・実務経験5年以上の職員を多めに配置しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		自由に過ごせる場と療育の場が区切られているなど、視覚的にもわかりやすいような配置をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		毎日の清掃や、換気・消毒など清潔に保てるように努めています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12			カームダウンボックスの設置なども検討中です。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11		わからない 1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	4	わからない 2 法人としての監査は、外部の人に依頼しており適時ご意見をお聞きしている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		定期的な研修や、毎週行う会議で障害特性の理解や支援方法の意見交換を行い職員のスキルアップに繋げていけるように努めています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		個別の療育とは別に、毎日の集団で行っているプログラムをInstagramにて公開するようにしています。	ホームページやInstagramを保護者の方への周知できるようにしていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		申し送り時の保護者の方からのお話なども、小さなことも聞き逃さないように注意しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		個別の記録ファイルに支援計画を入れ、職員がいつでも目に触れ確認できるようにしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		小さなことも共有できるよう連携をとっています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12			「本人支援」「家族支援」については厚く計画しているが、「地域支援・地域連携」についてはまだ検討していないといけない。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		職員で話し合いを行い、5領域を意識しながら楽しんで取り組める内容を考えています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		子どもたちが飽きないように、工夫しながら5領域に応じた内容のプログラムを考えています。		